

2024年度 第3四半期 決算補足説明資料

2025年2月

東証スタンダード市場：3423

 株式会社 **エスイー**

1. 2024年度第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

1. 2024年度第3四半期 連結決算実績

2. セグメント別の状況

1-1.当第3四半期連結決算実績サマリー（前年同期比）

サマリー 前年同期比～減収減益

建設用資機材の製造・販売事業の好調は継続しているものの、大型案件の剥落により前年同期比では及ばず、全セグメントにおいて減収。売上総利益は減益なるも利益率は微増。増工分の未承認や減収効果、中期経営計画（以下：中計）関連施策の推進を中心とした人件費・経費の増加により、営業利益以下は大幅な減益。

（百万円）

	2023年度 3Q	2024年度 3Q	前年同期比	
			増減	（増減率）
売上高	19,298	18,489	▲808	（▲4.2%）
売上総利益 （対売上高比）	5,197 (26.9%)	5,055 (27.3%)	▲141 (+0.4%)	（▲2.7%）
営業利益 （対売上高比）	997 (5.2%)	615 (3.3%)	▲382 (▲1.8%)	（▲38.3%）
経常利益 （対売上高比）	1,016 (5.3%)	628 (3.4%)	▲388 (▲1.9%)	（▲38.2%）
親会社株主に帰属する 四半期純利益 （対売上高比）	628 (3.3%)	378 (2.0%)	▲250 (▲1.2%)	（▲39.9%）

・売上高・売上総利益

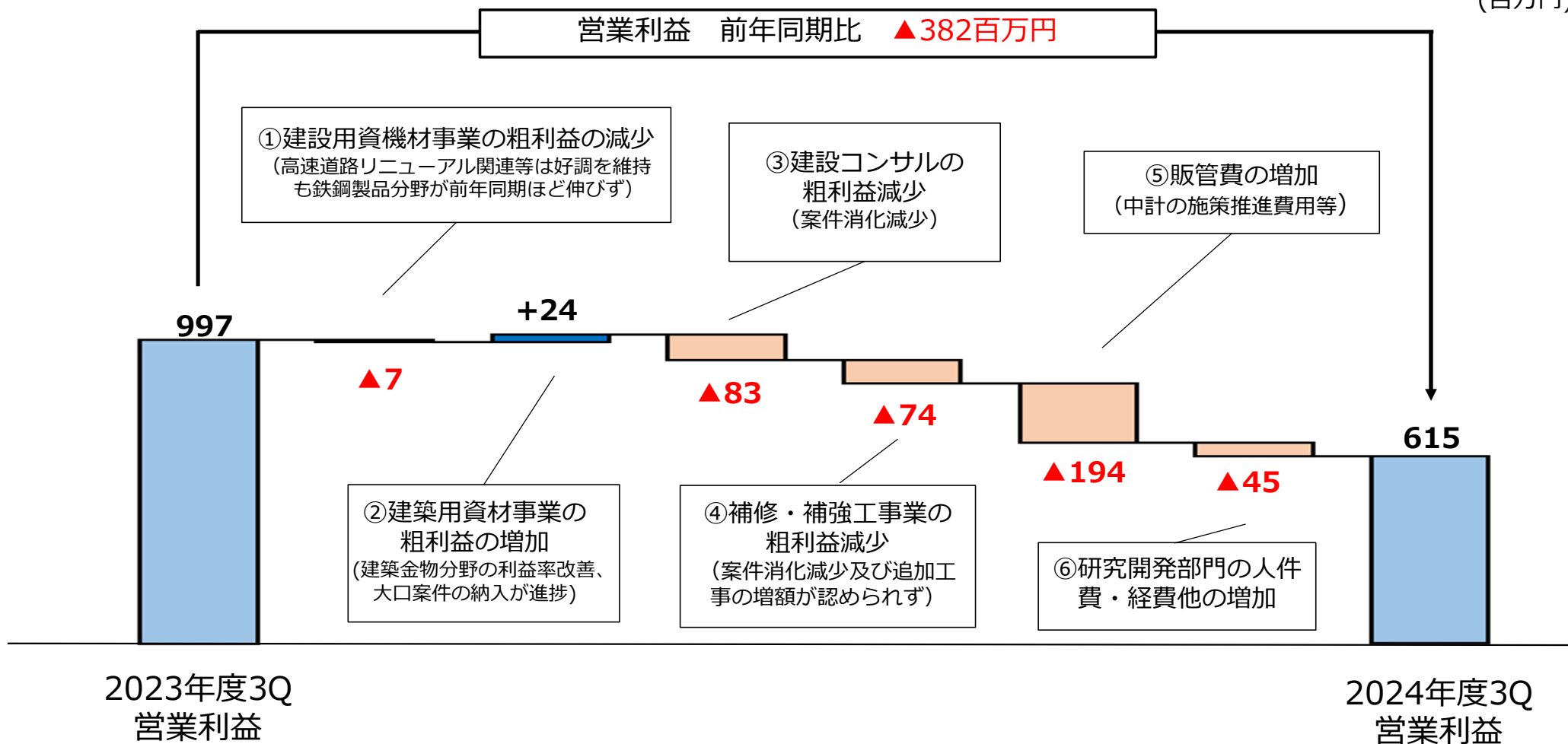
- 建設用資機材において、高速道路リニューアル関連の橋梁ケーブル製品は好調に推移も、第3四半期に大型案件がなかったため前年同期比減。
- 建設用資機材以外の3つのセグメントにおいては、期初受注残に伴う案件消化減を打ち返すことができず減収。
- 建設用資機材の土木耐震金物分野及び建築用資材の建築金物分野の売上総利益率は上昇。

・営業利益・経常利益・純利益

- 建築用資材分野で増工が認められず利益減。
- 研究開発強化をはじめとする中計の施策等を計画に沿って推進したことにより人件費・経費が増加した結果、大幅な減益。

1-2. 当第3四半期連結決算実績サマリー（営業利益増減）

(百万円)

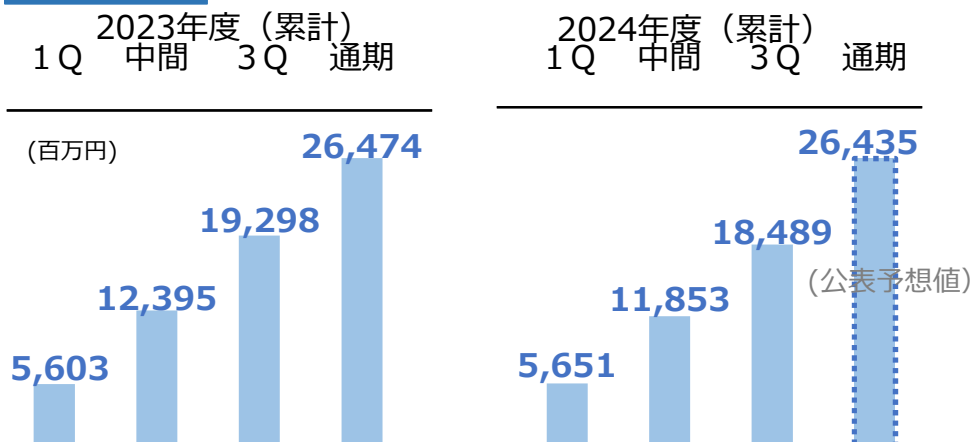


1-3.当第3四半期連結決算実績サマリー（公表予想比）

サマリー

公表予想比～売上高は、進捗率では前年同期比若干のマイナス。営業利益は、建設コンサルタント事業が下振れ見込みも他セグメントでカバー、公表予想値は修正なし。

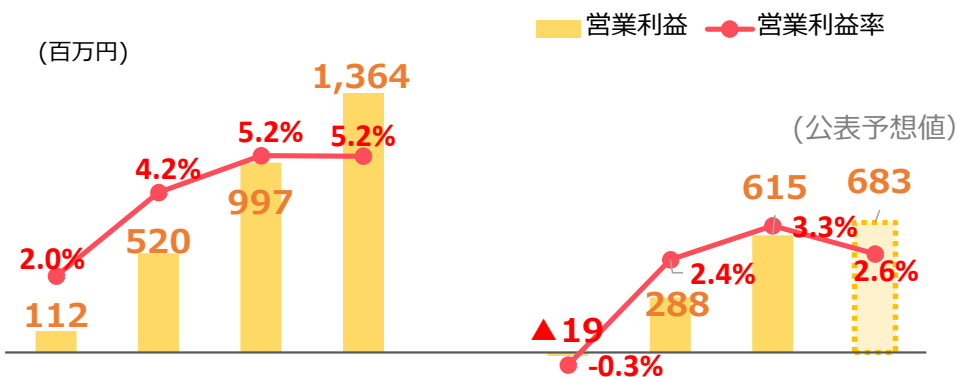
売上高



・売上高

- 公表予想値はほぼ前年度並みの通期売上高を予想。進捗率では前年同期比で若干遅れており、公表予想値の達成は予断を許さない状況。
- 建設用資機材において今期の大型案件は予想通り中間期までに収益化済みであるため、前年ほど下半期の伸びは期待できない。
- 建築用資材は中間期からは若干持ち直しが見られるが、建設コンサル・補修補強工事の状況次第では下振れの可能性あり。

営業利益・営業利益率



・営業利益

- 公表予想値は、研究開発強化をはじめとする中計の施策等による人件費・経費の大幅増等により前期比大幅な減益予想。
- 3Q進捗としては通期予想値を十分達成できる状況。
- 中計の施策の進捗は概ね順調だが、4Qの研究開発等の進捗次第では振れる可能性あり。

1-4.連結貸借対照表サマリー

サマリー

配当金の支払いにより純資産が減少したものの、負債が減少したことにより、自己資本比率は上昇。有利子負債の減少によりD/Eレシオは改善

(百万円)

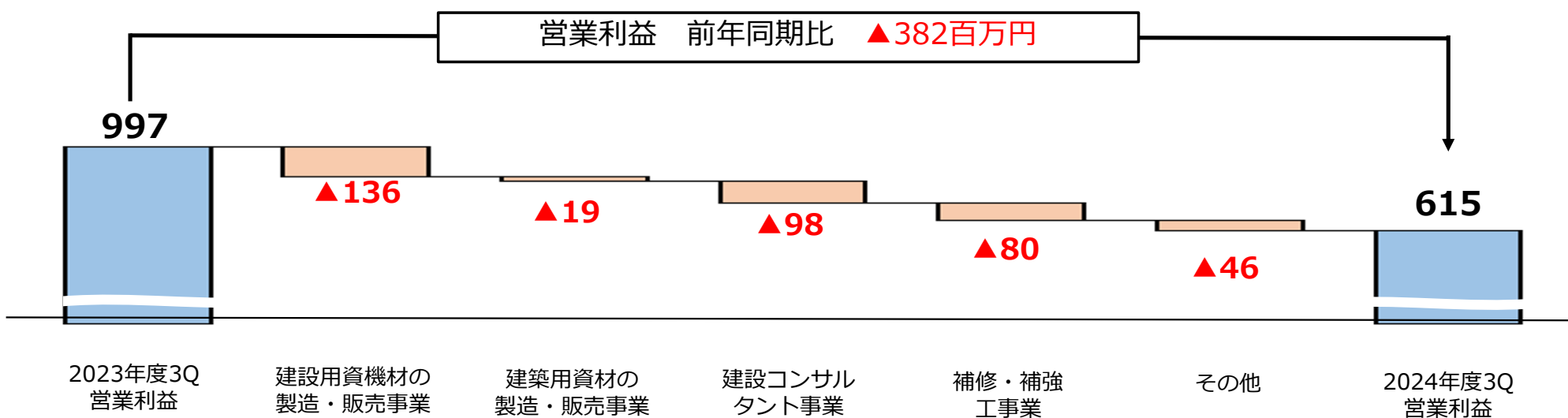
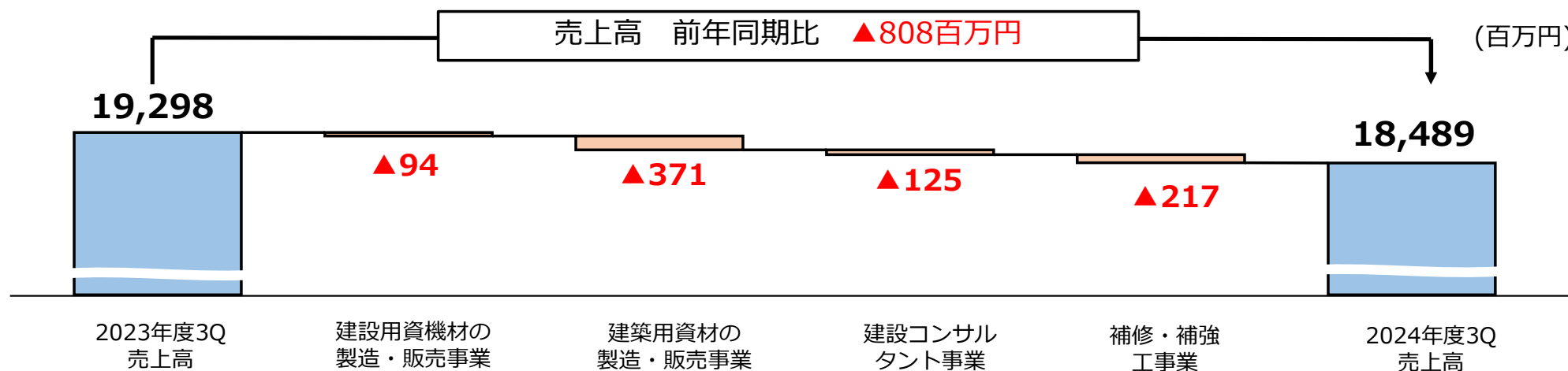
資産			負債		
2024年 3月末	2024年 12月末	増減	2024年 3月末	2024年 12月末	増減
26,432	25,578	(主な内訳)	15,408	14,570	(主な内訳)
		▲1,053 受取手形、売掛金及び契約資産			▲777 借入金
		▲545 現金及び預金			▲95 未払法人税等
		+166 仕掛品			▲86 賞与引当金
		+230 電子記録債権			+104 電子記録債務
		+326 建設仮勘定			+137 支払手形及び買掛金
					▲837
			純資産		
			2024年 3月末	2024年 12月末	増減
			11,024	11,008	(主な内訳)
					▲392 株主配当金支払い
					+378 親会社株主帰属四半期純利益
		▲854			▲16

	2024年3月末	2024年12月末	増減
運転資本 (百万円)	5,757	4,965	▲791
有利子負債 (百万円)	6,074	5,255	▲818
純資産 (百万円)	11,024	11,008	▲16
自己資本比率 (%)	41.6	42.9	+1.4
D/Eレシオ (倍)	0.55	0.48	▲0.07

1. 2024年度第3四半期 連結決算実績

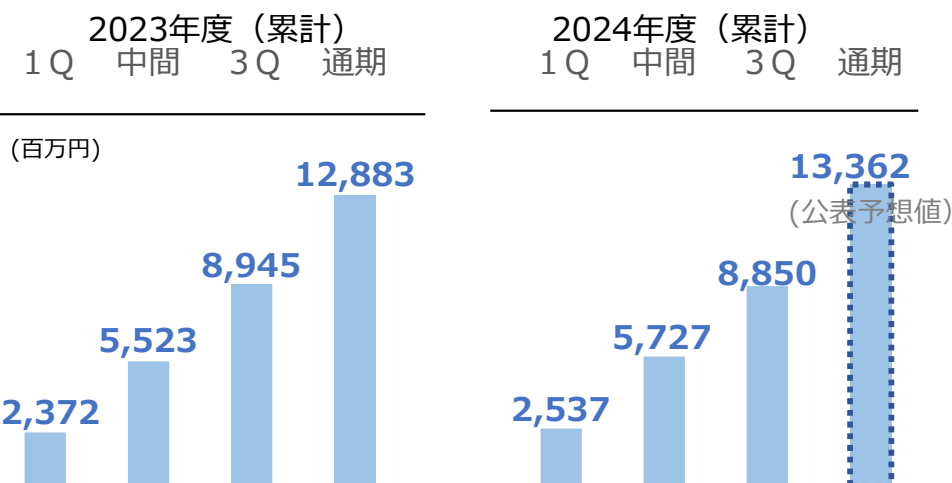
2. セグメント別の状況

2-1.セグメント別増減（前年同期比）

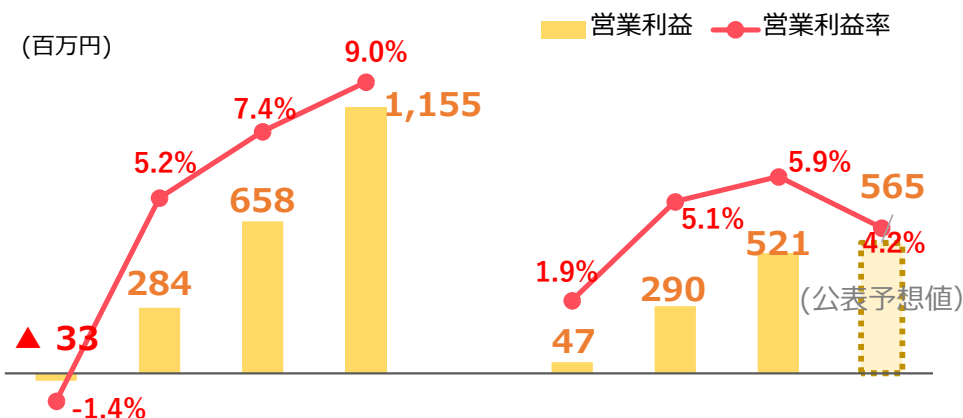


2-2.建設用資機材の製造・販売事業

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～減収減益

・売上高 (前年同期比▲1.1%)

- 高速道路リニューアル関連の橋梁ケーブル製品は好調に推移も、第3四半期に大型案件がなかったため、前年同期比は減収
- 顧客への価格転嫁も順調に進捗

・営業利益 (前年同期比▲20.8%)

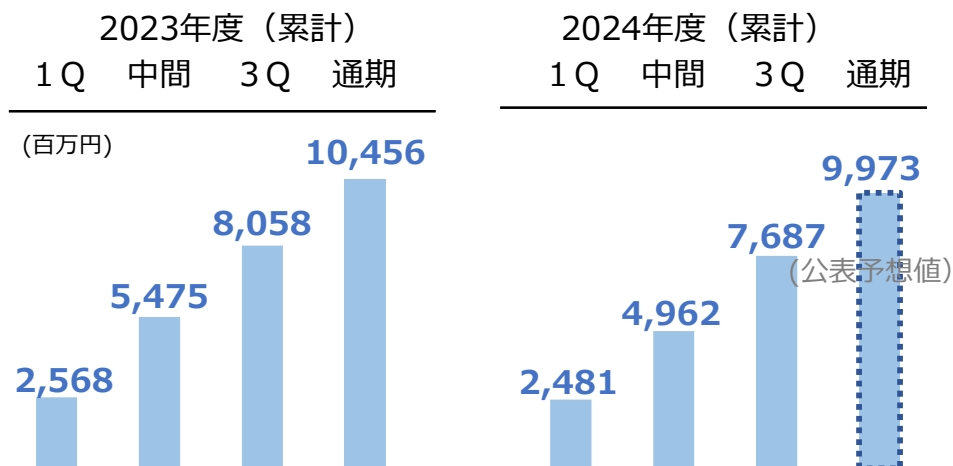
- 上期の好調を牽引してきた高利益案件は終息するも、顧客への価格転嫁の進捗により、粗利益は前年同期比ほぼ同水準を維持
- 中計の施策推進により販管費が増加、営業利益は大幅減益となった

○公表予想値～売上高は苦戦、利益は超過達成を狙う

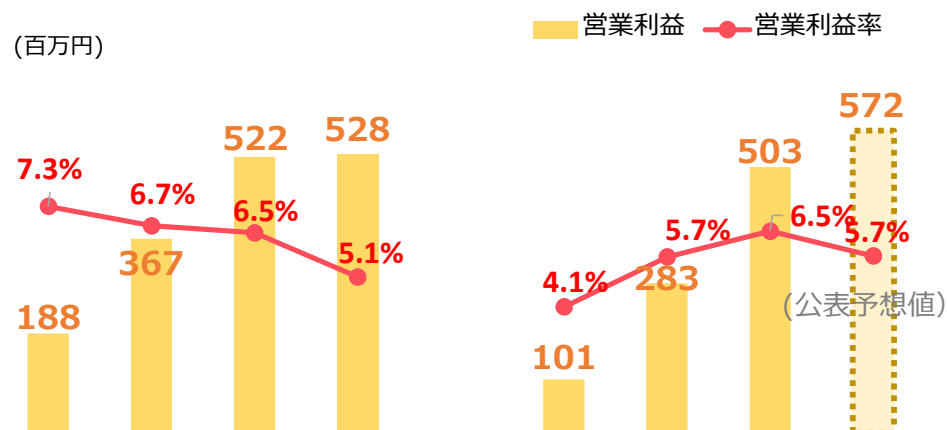
- 好環境の継続により増収、大型案件の終息及び中計施策の推進強化等による販管費増加があり前年比では大幅減益の公表予想
- 下期は大型案件がなく、売上の伸びは鈍化、能登半島地震関連も次年度以降へ
- 引き続き価格転嫁の浸透を継続し、利益確保を図り、予想比超過達成による他セグメントの利益の落ち込みのカバーを狙う

2-3.建築用資材の製造・販売事業

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～減収減益

・売上高 (前年同期比▲4.6%)

- 建築金物分野では首都圏の再開発工事が好調に進捗し、価格転嫁も進捗
- 鉄骨工事分野では期初受注案件の減少に伴う案件消化の減少に加え、増工の一部が認められなかったことにより減収

・営業利益 (前年同期比▲3.8%)

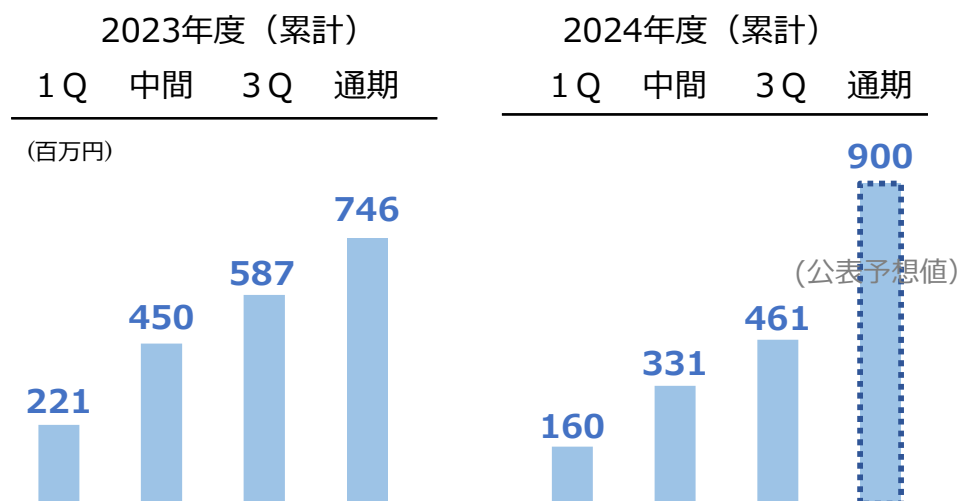
- 建築金物分野では上記要因により大幅な増益
- 鉄骨工事分野では上記要因により大幅な減益

○公表予想値～予想値は達成可能

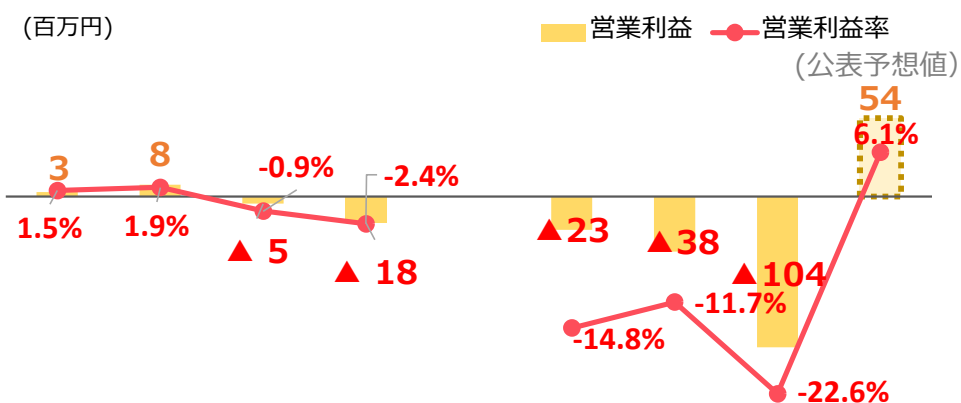
- 鉄骨工事分野では減収を見込むも建築金物分野を含めたセグメント全体としては、価格転嫁や営業の効率化に取り組むことで増益の公表予想
- 建築金物分野は予想通り進捗する見通し。鉄骨工事分野では、営業エリア拡大により受注増を図る

2-4.建設コンサルタント事業

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～大幅減収減益

・売上高 (前年同期比▲21.4%)

- JICA案件を中心とした期初受注案件の減少により案件消化も減少
- 受注消化予定案件の一部が次年度に工程変更となり売上減少
- JICAの精算ガイドラインの変更により精算時の減額が発生

・営業利益 (前年同期は5百万円の営業損失)

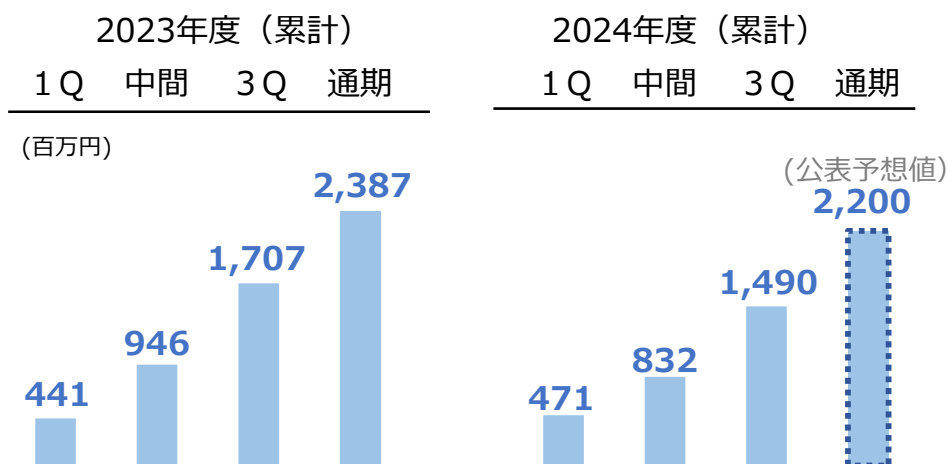
- 上記減収要因による減益

○公表予想値～達成は極めて厳しく、大幅未達の可能性も

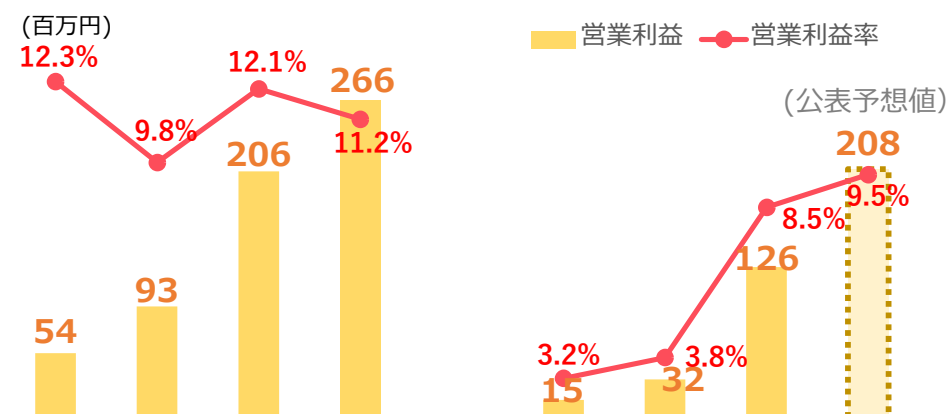
- JICA以外からの案件受注の増加や海外コンサルとの連携にて増収増益の公表予想
- 予想値達成は極めて厳しい状況
- 工程変更案件も含め予定案件の着実な消化により、未達額の圧縮を目指す

2-5.補修・補強工事業

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～減収減益

・売上高 (前年同期比▲12.7%)

- 期初受注案件の減少に伴い、案件消化が減少

・営業利益 (前年同期比▲39.0%)

- 大型工事の中での追加工事の増額が認められず利益率は低下。他の工事案件で利益率改善を試みるも、カバーできず

○公表予想値～予想値は達成可能

- 好環境は継続するものの、期初受注残並びに高利益案件の減少や働き方改革対応等により減収減益の公表予想

- 上期の受注状況により、下期は上向き予想、今後挽回は十分期待できる状況

上期は利益率の低下により、利益面では相当な苦戦を強いられたが、3Q以降では回復傾向

上期の良好な受注状況を活かし、人員配置の適正化や業務の効率化により、予想値達成を図る

将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

International Engineering Maker

